街角アルバム 四季折々

署名記事は広報まちかど特派員から

▲生きがい芸能大会

9月3日、オーエンス文化会館で生きがい福祉文化展と生きがい芸能大会が開催されました。同芸能大会では、皆さんが日頃から練習してきた歌や踊りなど、いろいろな演目を舞台で披露しました。中でも、平均年齢80歳という団体の爽やかな歌声のコーラスや、福祉施設の皆さんの一生懸命な踊りに大きな拍手が送られていました。【米山　徳治】

▲花火の翌日早朝にごみ拾い

花火大会翌日の8月28日早朝、市商工会青年部とボランティアが打ち上げ場所付近に落ちている花火玉の破片やごみなどを拾いました。綾瀬の花火は、畑の真ん中から打ち上げ、多方面から楽しめますが、その分、畑に花火のくずが落ちてしまいます。打ち上げ場所として貸してくれる地権者にも感謝しなければと感じました。　【笹山　真琴】

▲“あやせの癒しの音”を再発見

8月20日、市役所と城山公園で、癒しの音体験教室が開催されました。城山公園では、聞こえた音や同時に感じた「近い音」と「遠い音」を伝え合いました。市役所では、聞こえた音を図に描く「サウンドマップ」を作成しました。参加者は、普段無意識に聞こえる音に“あやせの癒しの音”を再発見したのではないでしょうか。　【福島　順一】

▲蓼川神社の祭礼

9月11日、雨の中、蓼川神社周辺で恒例の神社祭礼が行われました。子どもみこしと麟鳳亀龍（りんぽうきりゅう）のみこしが大勢の担ぎ手により、町中を威勢よく練り歩きました。夜になると、舞踊やカラオケなどで、大いに盛り上がり、地域の親睦をますます深めることができたようです。　【大滝　隆司】

▲地名の由来「吉岡」

9月29日、吉岡では刈り取った稲を稲架（はさ）に掛け、天日干しをしている光景が見られました。「吉岡」の地名は、土地が肥えていて、作物が良く採れる岡なのでこう呼ばれたといわれています。今も目久尻川沿いには、広々とした田畑が季節の恵みをもたらします。休日には、散歩やウオーキングを楽しむ家族連れが訪れ、にぎわいを見せています。

【吉江　旭】

▲子どもみこしが「わっしょいわっしょい」

9月17日・18日、小園子之社例大祭に合わせて、子どもみこしが地域を練り歩きました。近年、参加する子どもたちが減っていることから、参加するとお菓子などがもらえるスタンプラリーを行ったところ、今年は多くの子どもたちが「わっしょい、わっしょい」とにぎやかにみこしを担ぎ、かつての活気を取り戻したようでした。

【髙橋　元】

◀すごいぞ！手づくり宇宙船

8月29日、吉岡地区センターで「空き箱で宇宙船を作ろう」が開かれ、小学生約20人が参加しました。講師の後藤猛さんから説明を受けた後、子どもたちは苦戦しながらもワクワク顔で製作していました。出来上がった作品を、講師がスプレーで仕上げると「これすごい」と達成感を味わっているようでした。　【馬場　正勝】

▲威勢の良い熊野社の祭り

9月25日、上土棚南の熊野社で祭りが行われました。朝から「ソイヤー」の掛け声とおはやしの音と共に、子どもみこしや大人みこしが地域を威勢良く回っていました。熊野社では、鳥居の先の急な階段を上って宮入りし、境内で気勢を上げて何回も練っている様子に、見物人も一緒に声を上げていました。　【馬場　正勝】

道路の違反広告物を除去

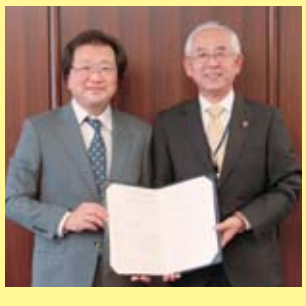
市協議会、県宅建協会がキャンペーン

9月10日、市違反屋外広告物除却連絡協議会と県宅地建物取引業協会県央東支部の101人が道路にある違反の貼り紙や看板の取り除き作業を行いました。定期巡回の効果で違反屋外広告物は少なくなったものの、落書きが増えてきており、消去作業も合わせて行いました。今後もまちぐるみの活動で、良好な都市景観の維持と快適な市民生活の確保に努めます。

問都市政策課☎70・5629。

経営診断や研修などを支援

中小企業大学と協定締結



10月13日、中小企業大学校東京校と「中小企業振興業務連携・協力に関する協定」を締結しました。

協定の締結で、市と大学が持つ知識やノウハウを相互に活用して、経営診断や各種研修制度の活用など、市内中小企業の総合支援を行います。

問工業振興企業誘致課☎70・5661。